

噫 松木先生

理事長 望 月 日 雄

松木先生と云えば祖山学院、祖山学院と云えば、松木先生を連想する程、松木先生は身延山の学校とは特別に縁も深く、法功も大なるものがある。

先生は大正八年祖山学院（身延山短大の前身）を卒業後、国内留学生として天台宗大学で研究されて後、祖山学院の教鞭を取られ、爾来約半世紀（四十六年間）、身延山の教育と布教とにさゝげて来られた。

私は身延山に来る迄は先生とは余り親懇という方ではなかった、私が昭和三十四年に身延山の総務に就任した時、先生は学頭の外に、身延山の教務部長を兼務されて居て私は種々御指導を受けました。

先生は身延山大学では大先輩で、その大先輩に二度ほど反対したことがあります。確か昭和三十七年のある日先生が私の部屋に来られて、身延山大学の改築の設計図を見せ、この様に学校の改築が本山当局で既に決議され、寄附金の募集も始められて居るので宗門並に世間に対し、是非急いで建築を進めて頂き度いと、熱心に説かれたが、私は身延山の当時の財政状態を話して、今の所は絶対不可能なることを説明したが、御きげんは面白くなかったらしい。又或時学校を建築する運びとなつてから、その位置についても学校案では寺平に建てることに決定してあったのが、現在の位置に建てることを理事会で決議され、全国同窓会大会でも決議されておいたので、大学の先輩の立場も考えず強引に実行したことはまことに失礼であったと聊か悔ゆることもあった。

昨年十月一日の大学校舎の落成式の日、式の始まる前に、学長室を覗いたら一人でパンを食べて居られたから、「先生、今日は嬉しいでしょう。」と申上げたら、先生は病中で延び放題にヒゲをはやしてギリシャの哲学者の様な顔でニコリと、「有難う。斯んな嬉しいことはない、モウいつ死んでもいい。」と言って心から喜んで居られたがその横顔は何とも申上げ様のない寂しさであった。その後二ヶ月で遷化の報に接した。私の脳裏にはあの落成式の日先生の笑顔が浮ぶ、今も私はあらためて心から増円妙道をお祈りした。

弔 辞

宗務総長 片 山 日 幹

身延山短期大学々頭権大僧正松木本興上人の霊前に白す。

上人は身延町に生れ、幼きより出藍の誉れありて仏縁深く、三歳にして出家して夙に僧儀を習い、祖山学院高等部本科を卒業の後、内地留学を命ぜられて天台宗大学を卒業、それより直ちに祖山学院に教鞭を執り、前後実に四十六年、先年推されて学頭となり今日に及ぶ。

また身延山に職を奉じ、教学部長及び布教部長として令名を全国に馳す。初め中巨摩妙法寺に住し、後転じて現在の市川大門長生寺に晋董し、徳望学殖の帰する所、推されて宗務所長、布教研修所長等となり、更にまた民生委員、